

みなと物語



大阪の市電第1号は みなと通りを走った

明治時代、交通の主力は人力車でした。

明治36年(1903年)9月12日、花園橋(現在の九条新道交差点)から築港棧橋(現在の大阪港)を結ぶ市電「築港線」が開通しました。全長5kmの路線に停留所が10箇所あり、料金は1区間1銭(全線片道4銭)でした。同年7月に完成した築港大棧橋へ魚釣りや夕涼みに出かける乗客がよく利用していたことから、市電の名物であった二階付電車は「魚釣り電車」「納涼電車」のニックネームで親しまれていたそうです。



開通当時の切符(明治36年)



往復切符(大正~昭和初期)



二階付市電(明治37~38年)

営業初日から
落雷の影響を

受けて市電が立ち往生するなど波
乱の幕開けとなりましたが、大阪の
新しい交通手段として次々と路線
を拡大していき、最盛期の昭和18
年には営業キロ114km、車両数

833両、1日143万人を運ぶまでに成長しました。戦災や水害など度
重なる大きな被害を受けながらも、私達の重要な足として活躍してい
たんですね。

やがて時代の移り変わりとともに交通の主
役はバスや地下鉄へと移っていきます。市
電は徐々に廃止され、昭和44年(1969年)
に惜しまれつつも65年間の歴史に幕を下
ろしました。



花電車(昭和33年)